

年 組 名前：

2020.6.19

風林火山

体がふわり、浮くように軽くなる。指先を離れたボールがすっと伸びていく。1995年夏。山梨学院高の投手として甲子園のマウンドに立った伊藤彰さんは、不思議な感覚を味わっていた▼「何かに背中を押される感じで、ボールが行く(球威が増す)ようになった」。2年前、夏の高校野球100回大会の取材で語ってくれた。「球場の雰囲気」に引き込まれるというか…。自分が持っている力以上のものを引き出してくれた」とも、▼甲子園には大勢の高校野球ファンがいて、山梨中銀スタジアムにはVF甲府のユニホームを着たサポーターがいる。当たり前だった光景が消えて久しい。喜び、悔しがり、笑い、泣く。選手と観客が同じ空間で感情を共有するところに、スポーツのすばらしさはあったのだが▼きょうからプロ野球が開幕する。応援歌も拍手もない。ファンのいないスタジアムで選手たちは何を見せられるだろう▼クラシックレースで盛り上がる春競馬は今年、無観客で開催された。3月。弥生賞をサトノフラグ号で制した武豊騎手の行動が話題になった。レースが終わった後、「ありがとございました」。誰もいない観客席に向けて大きく手を振った▼「あのスタンドの向こうにファンのみなさんの視線があると思ったら、自然とそういう動きをしていた」(武騎手)。そう。空っぽのスタンドの向こうには、球音を待ち続けた幾多のファンがいる。(伊)

(2020年6月19日付 山梨日日新聞 1面)

問1

伊藤彰さんが味わった不思議な感覚を書いてください。

.....

.....

問2

伊藤彰さんの背中を押したのは何だと思いますか。

.....

.....

問3

無観客の中で試合やレースをする選手の気持ちを書いてください。

.....

.....

.....